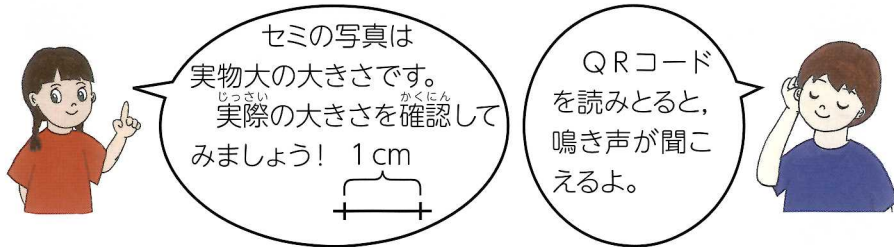


いろいろなセミを見つけてみよう

セミの鳴き声を聞くと「夏だな～!」と思いますね。そんなセミは世界に約 160 種類、日本には約 30 種類が生息しています。セミは幼虫の時、地面の中で生活しています。その期間はなんと3～17年です。そして、羽化して成虫となります。脱皮をした後には“抜け殻”を見つけることができます。

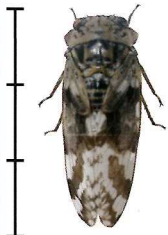
では、自分たちの身のまわりにはどんなセミがいるのでしょうか。鳴き声や抜け殻から、様々な種類のセミを見つけてみましょう。ここでは、代表的なセミを紹介します。



ニイニゼミ

鳴き声

チー— ↓ ジー— ↑



羽のようが
落ち葉みたいで
すっごく小さいよ!

時期: 7月～8月
成虫の大きさ: 33mm～38mm
よく鳴く時間帯: 1日中
好きな木の種類: ハナノキ、ケヤキなど

大きさ: 20mm～24mm
特徴: 全体的に丸い
泥がついている



ニイニゼミの抜け殻に泥がついているのは、ニイニゼミの幼虫が湿っている地面で過ごしていたからだとされています。



アブラゼミ

鳴き声

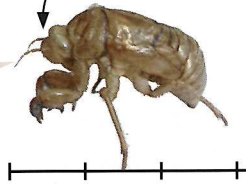
ジジジジシリシリ



羽が油っぽいよ!
テカテカしてるよ!

時期: 7月～9月
成虫の大きさ: 56mm～60mm
よく鳴く時間帯: 午後～日の入り後
好きな木の種類: サクラ、ケヤキ

大きさ: 26mm～32mm
特徴: 触角に毛がたくさん
生えている
テカテカしている



触角の間隔が
広いよ!

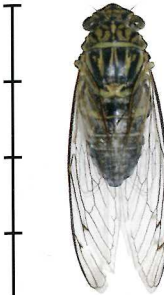
アブラゼミの抜け殻はミンミンゼミの抜け殻と形や色が似ています。触角が太くて、毛がたくさん生えている方がアブラゼミです。



ツクツクボウシ

鳴き声

ツクツクボーシ



頭がとても小さくて
長細いよ!

時期: 7月～8月
成虫の大きさ: 40mm～46mm
よく鳴く時間帯: 午後～日の入り後
好きな木の種類: サクラ、ケヤキ、マツ類

大きさ: 20mm～24mm
特徴: 殻がうすい
細くて、つやがない



ツクツクボウシの抜け殻は、ヒグラシの抜け殻と形や厚さが似ているけど、つやがなくて額が丸いものがツクツクボウシです。



ひがた やちよう かんさつ 干潟の野鳥を観察しよう

ひがた 干潟ってどんなところ？

海は、時間がたつと満ちたり引いたりすることを知っていますか？遠浅の海岸で、潮が引いたときに現れる砂や泥がたまった場所を干潟といいます。干潟には、カニや貝などがたくさんすんでいるので、それをめあてに数多くの野鳥が集まってきます。



三河湾に残る代表的な干潟の場所

近年、都市に近い干潟の多くは埋め立てられ、港や工業用地に変わりましたが、三河湾には、まだいくつかの干潟が残っています。代表的な干潟の場所を左の地図に示しました。

- ① 一色干潟（西尾市）
- ② 六条潟（豊橋市）
- ③ 汐川干潟（豊橋市～田原市）
- ④ 伊川津干潟（田原市）



セイタカシギ



シロチドリ

田原市から豊橋市にかけて広がる汐川干潟は、日本有数の渡り鳥の飛来地として知られています。汐川干潟では、カモやサギ、シギ、チドリ、カモメ、セキレイ、猛禽類など、これまで250種類ほどの野鳥が確認されています。

野鳥が観察できるのはいつ？

野鳥には、一年中見られる留鳥と、おもに夏に見られる夏鳥、秋から春まで見られる冬鳥、春と秋にだけ見られる旅鳥がいます。汐川干潟では夏鳥よりも冬鳥の種類が多いため、春と秋の観察がおすすめです。

また、潮の満ち引きによって干潟の様子が変わり、見られる野鳥も違ってきます。潮が引いて干潟が現れ始めると、シギやチドリ、サギなどが飛んできます。



アオサギ



コサギ



ハマシギ

潮が満ちてくると一面が海になり、今度はカモメやカモのなかまが水面に浮かんでいるのが観察できます。カモは成群でやってくることもあります。



カモメ



ウミネコ



ユリカモメ



カルガモ



オナガガモ



キンクロハジロ